

令和4年度物流関係予算(国際物流関係)

国土交通省北陸信越運輸局
令和4年3月

国土交通省総合政策局資料より抜粋

国際的なサプライチェーンの構築、物流事業者の海外事業展開ニーズに対応し、我が国の国際物流システムのシームレス化・更なる海外展開に向けた国際標準化を戦略的に推進することにより、アジアを中心とした質の高い物流システムの構築を図る。

シームレスな国際物流システムの推進

施策の概要

令和3年8月に開催された第8回日中韓物流大臣会合においては、新型コロナウイルス感染症が国際物流に大きな影響を与えたことも踏まえ、強靱で円滑かつ環境にやさしい物流の推進の重要性について三国間で認識を共有したところ。大臣会合において採択された共同声明に関連する具体的な取組を推進するため、以下の調査・実証等を実施し、三国間の協力・連携を図る。

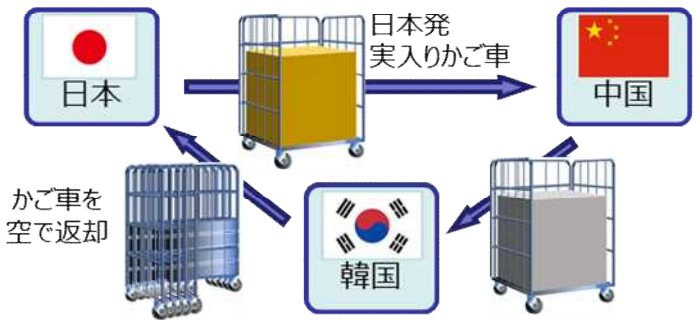


第8回日中韓物流大臣会合（令和3年8月、オンライン）

令和4年度の取組

- 日中韓でのRORO船を活用した物流モードの拡充
- かがり車による日中韓国際リターナブル化の推進 等

【日中韓におけるかがり車利用例(ルート: 日本→中国→韓国→日本)】



コールドチェーン物流サービスの国際標準化の推進

施策の概要

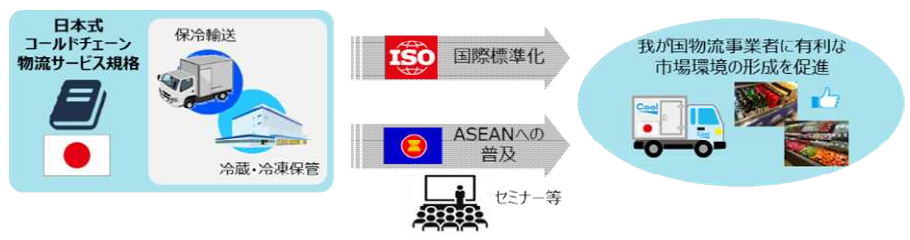
我が国の物流事業者の国際競争優位性の確保及び海外展開支援のため、国際標準化機構(ISO)において、日本式コールドチェーン物流サービス規格の国際標準化のための議論を推進するとともに、ASEAN各国に対する規格の普及に向けた官民連携による働きかけを実施。

<日本式コールドチェーン物流サービス規格: JSA-S1004>

JSA規格	発行日	令和2年6月30日
	対象	事業者間(BtoB)コールドチェーン物流サービス
	内容	低温保管/輸送を行うに当たって考慮すべき要求事項等

令和4年度の取組

- JSA-S1004をベースとする新たな国際規格の発行に向け、ISO内における規格開発を円滑に進めるため、規格原案の作成や、日本国内及び各国関係者との調整等を行う。
- 令和2年度に策定したASEANにおけるJSA-S1004の普及戦略および国別アクションプランに基づくセミナー開催等、官民連携による取組を実施する。



- 日ASEAN交通連携の枠組みの下、ASEAN各国との間で、二国間による「**物流政策対話**」及び「**ワークショップ**」を2009年より定期的に開催し、**両国の物流政策に関する情報交換や我が国の物流システムのプロモーション**等を通じて**物流事業者の海外展開を支援**。
- 令和3年度は、令和3年9月に**フィリピン**との間で「物流政策対話」と「ワークショップ」を開催。また、**マレーシア**との間で、令和4年1月に「物流政策対話」を、同年2月に「コールドチェーン普及啓発セミナー」を開催。

令和3年度実施内容

物流政策対話

開催日時

令和3年9月13日（月）AM



出席者

【日本側】 国土交通省、在フィリピン日本大使館
【フィリピン側】 運輸省、港湾庁、貿易産業省、投資委員会

議題

- 両国における物流施策
- フィリピンにおける物流課題
- 両国におけるコールドチェーン物流の促進の取組

主な議事内容

(外資規制について)

- 日本から、フィリピン国会で審議中の**外資規制を緩和する「公共サービス法」改正案**の進捗状況について確認。フィリピンより、同法案は**優先審議法案の一つであり、今国会が閉会する2022年6月までには改正の是非が決まる見込み**である旨の説明があった。

(輸入における税関審査の遅延について)

- 日本から、コロナ渦による在宅勤務に伴う審査効率の低下や、申告件数の増加に伴うシステムダウンの発生について説明し、改善を要請。フィリピンより、**現在、港湾システムの更新や通関プロセスの改善等、税関審査の迅速化に向けた取組を進めている**旨説明があった。

(交通渋滞について)

- フィリピンから、マニラ港周辺の道路混雑緩和に向けて、**マニラ北港とマニラ南港を結ぶ橋を建設する計画がある**との回答があった。

ワークショップ

開催日時

令和3年9月13日（月）PM



出席者

【日本側】
国土交通省、農林水産省、環境省、在フィリピン日本大使館、JOIN、
(一社)日本物流団体連合会、(一財)日本海事協会、物流関連事業者 等
【フィリピン側】

運輸省、港湾庁、コールドチェーン協会、物流関係事業者 等

プログラム

- コールドチェーン物流を支える物流機器や技術等の紹介
- コールドチェーン物流の構築に向けた支援策の紹介
- コールドチェーン物流サービスの標準化の重要性
- フィリピンにおけるコールドチェーン物流サービスの紹介

主な議事内容

- フィリピンの物流事業者から、**日本企業各社の製品や技術に対する高い関心が示された。**
- フィリピンの物流事業者から、**コールドチェーン物流サービス規格のISO化に関して、フィリピンとしてもサービスレベルの向上につながる取組として高い期待が寄せられた。**
- フィリピンコールドチェーン協会から、**今後フィリピンでは冷蔵・冷凍食品の需要の増加に伴い、コールドチェーン産業が大幅に成長する見通しであるとの認識が示された。**

- 我が国の物流サービスの新興国への導入に向けて、現地で実証輸送を行い、**官民一体となって事業化に向けた課題の特定とその解決を図る**ことを通じてビジネスモデルの確立を目指すパイロット事業を戦略的に展開。
- 令和2年度は、カンボジアにおいて日本の高品質なコールドチェーン物流サービスの展開を促進するため、**農村部で収穫された農産物をコールドチェーン環境下で消費地まで輸送する実証**を通じ、現地での事業化に向けた課題の特定等を実施。

現状

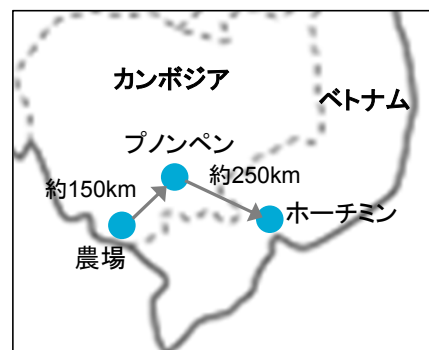
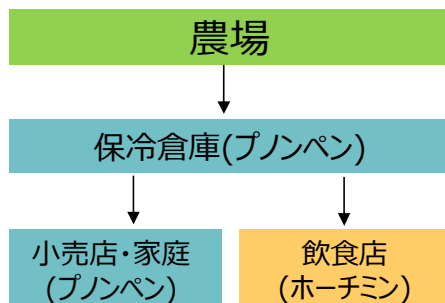
- カンボジアにおいては、農産物は収穫当日に常温トラックで市場まで配送し、そのまま販売することが一般的であり、品質保持のための低温輸送・保管はほとんど行われていない。
- 一方、冷蔵・冷凍食品の消費量が近年急速に増加する等、コールドチェーン物流サービスの需要は拡大することが見込まれる。

令和3年度実施内容

調査内容

<調査対象エリア>
カンボジア南部の農場、プノンペン、ベトナム・ホーチミン

<実証輸送ルート>



<実施方法>

農産物（キャベツ）の輸送を日本式コールドチェーン物流サービス規格に準じた輸送と現地の一般的な輸送の2パターンで実施し、その品質を比較。

調査結果と課題

- 現地の物流事業者は、積込みに時間を要する、予冷が不十分であるなど、**輸送中の温度変化を防止するための措置に関する知識が不足**している。
- 収穫した農産物を保管するための保冷倉庫が農場周辺にないなど、**必要なインフラが不足**している。
- プノンペン市内の走行制限について、市役所と交通警察で見解が異なり、**規制の運用が不透明**。
- ベトナムへの輸出において、通関に4時間を要するなど、**国境通過の際の所要時間の長さ**が**輸出の障壁**になっている。

[小売店への輸送における品質比較]

規格に準じた輸送	現地の一般的な輸送
 品質良好	 芯の変色や葉のダメージあり
	